

第2回少子化・人口減少対策戦略検討会議の概要について

1 日時等

日時 : 令和5年11月10日(金) 10:00~12:00

会議事項 : 県からの資料説明

(株)ニッセイ基礎研究所 天野馨南子氏による講演(オンライン)

演題 : 「長野の人口減の真実を知る」

長野の企業こそが長野の未来を変える「統計的理由」

意見交換

構成員等 : (順不同、敬称略)

| | |
|-------|----------------------|
| 堀越 倫世 | 長野県経営者協会 副会長 |
| 町田 康子 | 日本労働組合総連合会長野県連合会 副部長 |
| 柳田 清二 | 市長会 総務文教部会長(佐久市長) |
| 山村 弘 | 町村会 総務文教部会長(坂城町長) |
| 阿部 守一 | 長野県知事(座長) |

(スーパーバイザー)

| | |
|-------|--|
| 山崎 史郎 | 内閣官房参与(社会保障・人口問題) 内閣官房全世代型社会保障構築本部事務局総括事務局長(欠席) |
| 広井 良典 | 京都大学 人と社会の未来研究院 教授(欠席) |

| | |
|--------|-------------------------------------|
| 天野 馨南子 | (株)ニッセイ基礎研究所 生活研究部 人口動態シニアリサーチャー |
| 岡久 潤 | 長野労働局 総務部長 |

2 議事概要

(1) 長野県からの資料説明

① しあわせ信州創造プラン2.0政策評価(社会増減、合計特殊出生率)

- ・令和5年3月で計画期間が終了したプラン2.0について、少子化・人口減少に関する評価の概要を説明。

② 長野県民の結婚・出産・子育てに関する意識調査

- ・令和5年6月に実施した当該調査結果の概要を説明。

③ 「女性から選ばれる長野県を目指すリーダーの会」について

- ・令和5年9月14日に発足した本会の取組等を説明。

④ 今後の長野県の少子化・人口減少対策 議論ペーパー

- ・長野県として特に注力すべきことや独自に取り組むべきことについて、意見交換いただく観点を例示。

(2) 講演の概要

- ・2022年に長野県は社会増に転じたものの、そのうち93%が男性といった男女のアンバランスが見られ、20代前半女性の減少が顕著。非常に多くの女性が流出している。
- ・社会増となっている都道府県は女性の定着力が強いが、社会減となっているエリアや長野県はその逆で男性を集めている。
- ・女性より男性が多く県外へ転出しているが、男性は戻ってくる人が多い。一方で女性は転出数こそ男性より少ないが、一度出ていったら戻らない人が多い。女性は、埼玉、群馬など東京圏の比較的長野から近いところへの転出超過が目立つ。
- ・若い女性の転出が継続することで、全国と比べ男性余りで、長野県の結婚適齢期男性は結婚が難しくなっている。
- ・出生数を見ると1995年から2022年で長野県は57.3%減。一方で合計特殊出生率が低い東京は1995年から6%減。若年女性の社会増減が大きいいため、県別でみたときに合計特殊出生率と出生数の増減率は相関がない。少子化度合いは出生率の高低で比較できない。
- ・若い世代は、職種より働く環境を重視しており、企業の社会貢献活動も重視している。女性活躍等の取組は、国の認定制度で可視化されており、認定企業が集中する東京圏が選ばれる傾向。
- ・長野県の社会減対策は、女性の就職（雇用）対策ではないか。若い女性の就職・雇用対策をやらなければ社会減は解決しない。
- ・出生数の減少は婚姻数の減少に起因しており、未婚化対策を優先して実施すべき。若い世代と50歳以上では家族観や就業観に大きなギャップあることを認識する必要。

(3) 意見交換の概要

- ・えるぼしの認証企業数（全国で2176社）は半数が東京で、長野県では19しかない。若者にとって魅力のある企業がたくさんあるとPRするためにも、くるみん制度も含め各種認証を取得するよう中小企業などへ更なる働きかけが必要。
- ・少子化対策において企業に期待される役割が大きいが、企業側に委ねるばかりでなく、育休取得できる環境整備や保育の充実など行政としてどう環境を整えていくかも重要な課題。
- ・経営者本人を巻き込んでいくことが必要。国や県の認証制度や、リーダーの会などの仕組みについて、その進捗や効果を検証していく必要がある。
- ・長野県は社会増ということで比較的よい状況と思っていたが、実態は非常に深刻であり、そうした状況について共通認識を持ちながら対策を進めることが重要。
- ・男性の育休取得に対する考え方など、子育て期に入る世代と、その親世代では意識が大きく違う。出世に響くことを心配し、親が仕事を休んで息子が育休を取得することを止めさせる、といった例も聞く。